



今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 33 《筑後一徳 先生》 ◆看護師さんのページ NO. 13 《山田志美江さん》
- ◆研修医のページ NO. 18 《日下あかり 先生》 ◆臨床研修病院連絡会・臨床研修ガイダンス
- ◆第2回高校生医療現場体験セミナー ◆春季地域医療実習 ◆その他



布施・中村診療所

所長 筑後 一徳



NO.33

平成19年4月から隠岐の島町の布施へき地診療所と国保中村診療所で勤務しております。担当する地域は隠岐島後を丸時計にたとえると概ね11時30分から2時30分の海岸部です。国保中村診療所は島根の医療機関では最北端になります。対象人口は中村地区が1200人、布施地区が500人です。島根の山間部同様高齢化率は高く、布施地区にいたっては40%を超えます。日々の来院患者の平均年齢をみてみますと、低くても75歳程度で高いときには80歳を超えます。中村から布施にかけての海岸は釣り師にとつては垂涎の的ですが、都市部の便利な生活に慣れ親しんだ人が住むとなるとかなり覚悟が必要かなと思われま

す。午後7時を過ぎると人や車をあまり見かけません。静まり返った夜に火の用心の拍子木の音が聞こえます。たまに実家のある出雲に帰る事がありますが、えらく都会に感じたりします。東京にでも行った日にはあまりの人の多さに吐き気を催すかも知れません。診療所のスタッフは私の他に看護師

3名、事務1名で、合計5名が布施、中村を行き来しております。外来患者さんの多くは生活習慣病、加齢に因る障害で、殆どは予約の再診患者さんです。ほかに訪問診療、予防接種、健診といった業務で、他の診療所と相違ありません。その他には月に休日2回の隠岐病院の当直に従事しています。現在、島内の4つの公立診療所ではCIMA Chart(診療所向け電子カルテ)を利用してありますが、島内で電子カルテ連携ができていくわけではありません。又、通信速度が遅い地域があり、電子カルテ利用にストレスを感じます。さまざまなサービス提供が希薄なこのような地域こそ光ファイバー網を優先的に整備してもらいたいものです。高齢者がダイコンやかぼちゃをネットスーパーで購入できる日が来るかもしれません。隠岐病院との連

国保中村診療所

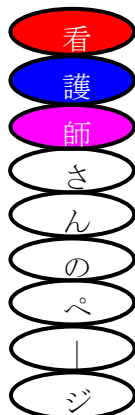


布施へき地診療所



携は現時点でも濃厚ですが、今後さらに強化していく必要があると思われま

す。隠岐島後のように一島一町で中核となる病院が一つ、診療所が数箇所あり連携強化が求められる状況では、一地域一患者一電子カルテにチャレンジしても良いかもしれません。寝たきりではないものの、慢性の下肢疼痛を抱えるなど自力で病院へ通院できない高齢者が多く、バスの運行ダイヤも極めて粗い為、生活支援の観点から早いうちに通院患者の送迎を実施できる体制が必要と考えています。



NO.13

益田赤十字病院

糖尿病看護認定看護師

島根県糖尿病療養指導士 山田志美江

平成18年厚生労働省が発表した糖尿病患者数は、糖尿病の可能性がある予備軍をあわせて1870万人

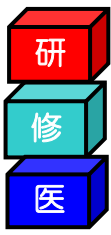


であり、今や日本人のどれもが糖尿病になる可能性があるといってもよい状況です。また、これに伴い重症合併症を持つ患者様や75歳以上の薬物療法を必要とする高齢患者様と関わる必要が多くなりました。

糖尿病看護認定看護師は、糖尿病を持ちながら生活をする患者様に対し、悪化を防ぎ、健康な生活が継続できるような質の高い技術を用いて援助でき、発症予防においても貢献できることを期待されています。現在、私は糖尿病教育担当病棟に在籍していますので、治療教育目的入院の糖尿病看護の実践や、実践を通してのスタッフへの指導を行っています。糖尿病患者様の状況に応じて生じる心理的・身体的・社会的な問題を的確に把握し、その支援方法を計画・実施・評価すること、患者様やご家族その他重要他者に対するケアシステム立案を実践し、カンファレンスやスタッフ会議を利用しスタッフへ伝えることが役割であると考えます。外来では、毎週月曜日にフットケア外来を行っています。依頼があれば、他病棟や外来でのインスリン導入支援、血糖測定支援、療養支援も行います。特に「自分の体（糖尿病）をどのようにとらえているのか、病気とどの様に付き合っていくか、治療と自分の生活をどのように折り合いをつけていくの

か」について患者様と話し合うようにしています。また今後は、地域の住民の皆様が糖尿病に関する正しい知識を持つことができるように健康教室などにも積極的に関わっていきたいと思っています。

当院では、糖尿病専門医2名、糖尿病療養指導士9名と糖尿病教育スタッフがたくさんいますので、院内で連携を取り合い効果的なチーム医療の実施が可能です。チーム医療の中にあつては、患者様の全体像をとらえるフアンリテーターとして、患者様の代弁者として、チームのコーディネーターとしての役割が果たせるよう努力していきたいと思えます。このような活動を通して糖尿病看護認定看護師を認知していただき、地域のリソーススナースとして活用していただけたらと考えております。どうぞよろしく願いたします。



のページ

NO.18

島根大学医学部附属病院

2年目研修医 日下 あかり

初めまして。私は母校の島根大学附属病院で二年間の初期研修を終えようとしています。大学入学から出雲の土

地に来て八年ですが、父が出雲出身でこちらには幼い時から縁がありました。



学生の時の臨床実習で研修先に母校を考えていました。二年間のうち、地域研修としての隠岐病院と邑智病院1ヶ月ずつの他は大学で過ごしました。研修先が変わる度に新しい病棟、疾患、人間関係の繰り返しで、時に私を含め回りの研修医も疲れを感じることもありました。今ではすれ違う度に笑顔で挨拶を交わせる関係がつけられるようになりました。社会に出たばかりでいろいろな仕組みも分からない中で、上級医、他科医師、看護師さん、薬剤師さん、検査技師さん、レントゲン技師さん、リハビリ療法士さん、栄養士さん、ソーシャルワーカーさん、事務の方々から、それぞれの得意分野の知恵を出し合ってくれたくさん助けていただきました。医療は一人ではできない、様々な職種が力を合わせてこそ患者さんのために最良のことができる実感しています。研修が始まって、最初は上級医や患者さんとはもちろんのこと、他

職種とのやりとりに戸惑うこともありましたが、誠実に向かう姿勢を忘れずにいれば良い関係づくりができるようになりました。実際、顔が見えている関係だと緊急検査や多少無理のあるオーダーでも断れない、と技師さんたちが苦笑いしながらお話しされていたことがあります。私は学生の頃は主に軟式テニスとバドミントンをやっていたのですが、研修が始まってからは職種を問わずお誘いして、軟式・硬式テニス、バドミントンを時々しています。職種は医師、看護師、検査技師、薬剤師、リハビリ療法士、レントゲン技師、受付担当まで様々です。採血の検体を提出しつつ「今夜バド、行けますか」と話したり、廊下ですれ違いざまに「昨日の筋肉痛はないですか」と挨拶がてら交わしたりしています。今では参加メンバーの知り合いの元プロの方が来られたり、さらにメンバーが増えたりとパワーアップしています。この交流を通して、普段の勤務範囲では会わな



医師募集キャラクター



い方々同士で仲良くなられたりもしているようで嬉しく思います。救命関係の講習で知り合った救命士さん、他病院の医師、看護師さんたちと共に活動ができるのも貴重なことと思っております。また、大学の研修中にハワイ大学一週間とメルボルン大学二週間の研修をさせていただいたことは、日本での研修の他いろいろなことに対する意欲向上につながりました。四月からは母校麻酔科で新たなスタートを切りますが、一層人間関係を大事にしながら精進していきたいと思えます。

**臨床研修病院連絡会  
臨床研修病院力イダダンス開催**

平成21年

2月11日に  
県内の10の  
臨床研修病院  
の参加を得て  
臨床研修病院  
連絡会議を開  
催しました。

各病院から  
は研修医の採  
用状況、臨床  
研修の実施状



況等の報告と大学との連携強化や臨床研修プログラムの見直し等今後の動きについて発表がありました。

県及び島根大学からは研修医の県内定着に向けた取り組みについて平成20年度実績及び平成21年度計画等を報告しました。また、今後の臨床研修制度の動向について、情報共有することとなりました。

**初期・後期臨床研修ガイドンス**

平成21年2月11日に初期・後期臨床研修ガイドンスを開催し、島根大学医学部の5年生を中心に21名に参加いただきました。県内12の臨床研修病院と鳥取大学医学部附属病院から研修プログラムの特色等のプレゼンテーションをしてもらい、その後、興味をもった病院のブースで医学生・研修医の個別相談を行いました。

【医療対策課 太田】

公立雲南総合病院のブース  
で説明を受ける医学生



**春季地域医療実習**

医学生に離島や中山間地の医療を実際に肌で感じてもらうため、春休みを利用して、春季地域医療実習を開催しました。

今回は、雲南、県央、浜田、益田、隠岐島後及び隠岐島前の六地区において、一年生から三年生までの十五名の医学生が参加し、一泊二日の日程で地域医療への理解を深めてもらいました。次回の医学生地域医療実習は、夏休みを利用して実施する予定です。

【医療対策課 太田】



隠岐病院での助産  
科研修

加藤病院で講義を  
受ける医学生



**平成20年度第2回高校生  
医療現場体験セミナー**

**医療現場体験セミナー**

県内高校生を対象に医療現場での体験、学習を通し、医師の仕事や地域医療についての理解を深め、医師を目指そうとする高校生を増やすことを目的に「高校生医療現場体験セミナー」を、平成18年度から年2回(夏季・春季)実施しております。今年度第2回目となる本セミナーは、看護師不足が深刻化する中、看護師志望者も対象とし、3月26日、27日の2日間4病院(松江生協病院、公立雲南総合病院、出雲市立総合医療センター、益田医師会病院)の協力の下、18校113名の参加を得て開催しました。

参加した生徒たちは、普段経験することが出来ない医療現場の体験を通じて、一応に興味を抱いていました。また、医療現場の第一線で活躍されている医師・看護師の体験談についても真剣に聞き入っていました。

今回、113名という大変多くの高校生に参加してもらいましたが、医療従事者確保が厳しさを増す中で、医療現場に興味を抱く学生が増えてきたことは、地域医療の将来に明るい兆しが見えて来たと思えます。

【医療対策課 石原】

## 第2回しまね地域医療の会



平成20年度第2回「しまね地域医療の会」を、1月31日（土）出雲医師会館において開催しました。

本会は、島根県の自治医科大学卒業医師や赤ひげバンクを通じて島根県内の医療機関に着任された医師などが、相互に情報・意見交換する場で、年2回開催しています。

今回は、医療対策課から周産期医療、救急医療、医師確保対策、地域ICT利活用モデル構築事業等についての検討経過を報告した後、各地域からの活動報告を行いました。その中で、隠岐病院の新築移転計画の準備状況も話題

提供されました。また、第1回目に続き今回もテレビ会議システムを活用し、島後地区在住の会員についても会議に参加出来るようにしました。  
今後とも本会を通じて、地域医療を担う医師同士の連携が、更に強くなることを期待しています。

【医療対策課 石原】

テレビ会議システムを活用した  
しまね地域医療の会



## 第2回地域医療支援会議

地域医療をより総合的・体系的に推進するため、本年度第2回目の地域医療支援会議を3月13日に開催しました。

今回の会議で、平成21年度の義務年限内自治医科大学卒業医師の派遣計画案が了承されました。

このほか「公立病院改革ガイドラインにかかる再編・ネットワーク化に對

する基本的な考え方」について、県内各公立病院が各地域における中核的な病院として機能していることや、地域の需要を踏まえ、再編や経営統合等の取り組みがすでに実施されていることから、県としては、現時点ではさらなる再編統合は考えていないことを説明しました。

また「医療における今後のヘリコプターの活用」については、今後、関係機関で幅広く協議していくことが確認されました。

そのほか、県から、医師確保の状況と平成21年度医師確保対策関連予算の概要について報告しました。

【医療対策課 仲佐】

地域医療支援会議



### 島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

### 医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

### 「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県医療対策課医師確保対策室  
TEL 0852-22-6684 FAX 0852-22-6040  
E-Mail [iryoutai@pref.shimane.lg.jp](mailto:iryoutai@pref.shimane.lg.jp)  
ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>



